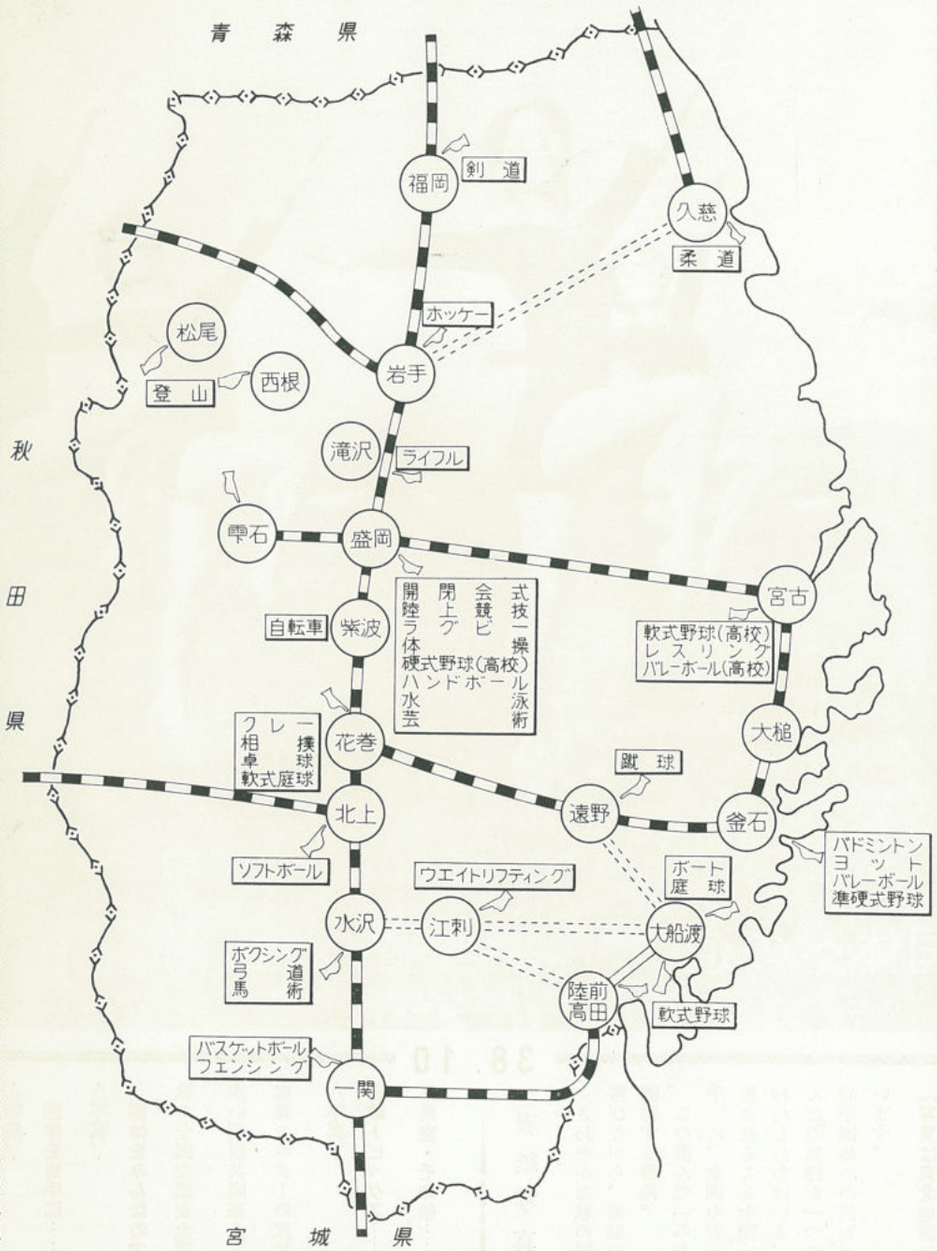
第22回国体を
岩手で開催しよう

競技開催予定地と競技種目



国体を岩手に

国民体育大会は、敗戦後の日本を再建するため、昭和21年に第1回大会が開催されていらい、人づくり、県づくり、国づくりとして毎年、夏・秋・冬の三つの大会を開催してきました。

そしていま第十八回大会が山口県で行なわれており来年は東京オリンピック大会が開催されます。

こうした気運のなかにあって岩手県では、昭和42年の第22回国体を本県に誘致するため、あらゆる努力を続けています。本号では、この岩手国体誘致実現のための体制など、その歩みを紹介し、150万県民の宿願である岩手国体に県民の総力を結集することを期待するものです。

岩手国体を四十二年に

国民体育大会（国体）は、「国民のスポーツの祭典」であり、国家的な大行事といえましょう。

この国体は、各都道府県が持ちまわりで開催しており、それだけに開催地では大きな事業となるわけです。

本県ではいま、昭和四十二年に開催される予定の第二十二回国体を誘致するため、正式に立候補して強力な誘致運動を展開しております。つぎに、この国体誘致の足どりを辿ってみましょう。

誘致運動は二十八年から

「明るく豊かな住みよい郷土岩手を建設する」ため、あらゆる面から協力を得て、目的を達成することに努力を続けている本県が、とくに体育スポーツを振興して、健全な身体を養い、また明朗闊達で積極的な気風を培って、これら心身の向上を県民性にまで定着させ、それを県勢発展の基盤にしようとするのが、いわゆる岩手国体開催の大きな意義といえます。

▽すでに昭和二十八年に国体誘致運動を起した本県では、当時から国体開催の意義を認識しており、その開催に力を注いできたのですが、不幸にも赤字再建団体に指定されるにおよんで、一時断念せざるを得なかったのです。

▽そして昭和三十三年、ふたたび岩手国体誘致の覚悟を新らたにして、県民運動として国体誘致を推進する内部体勢を固めてきました。

▽昭和三十五年度、再建団体指定解除が迫り、急激に国体誘致への県民の世論が高まり、昭和三十六年二月には県議会、各市町村、各市町村議会、体育関係団体県民代表などを網羅した第二十一回国体岩手県誘致委員会の結成をみたのです。

しかし国体開催の新地区制の確立に伴なって、第二十一回大会は西部地区に決定されたため、本県では改めて昭和四十二年の第二十二回国体の誘致を決定したわけです。

▽昭和三十七年二月からは、いよいよ具体的な誘致運動を展開するため、第二十二回国体岩手県誘致委員会が発足しました。こうして岩手県、岩手県議会、開催予定市町村をはじめ、全県民が相たずさえて第二十二回大会の誘致実現を期しています。

▽そして昭和三十八年四月、百五十万県民の宿願をこめて正式に立候補しましたこのように昭和二十八年いらい、たゆみなく続けられてきた岩手国体への願いは十一年目のいま、全県あげての県民運動として展開されております。

しかし昭和四十二年の第二十二回国体